

赤木正雄展示館のある赤木家住宅（有形登録文化財）



砂防の父 赤木正雄展示館のご案内

日本砂防の父 赤木正雄の功績を後世に伝える

土砂災害をなくすことに生涯を捧げ、「砂防一路」の道歩んだ「日本砂防の父」赤木正雄の偉大な功績を後世に伝え、砂防の役割を広く知ってもらうために設立された資料館です。



写真左上から時計回り ■赤木家住宅外観 ■展示館前に移設した舟 ■昭和初期、水没する豊岡市
■赤木正雄の計画で造られた白岩砂防堰堤（国重要文化財） ■文化勲章授与 ■雲原村で石碑の前に立つ赤木正雄

赤木正雄とは

■明治20年兵庫県豊岡市に生まれた赤木正雄は、故郷を流れる円山川の洪水氾濫をなんども経験しました。のちに第一高等学校で新渡戸稲造校長の訓示を聞いて、災害をなくし人々が安心して暮らせるようにすることに自分の生涯を捧げようとして決意します。東京帝国大学農学部で砂防を学び、内務省などで土砂災害をなくすために精魂を傾け、「砂防一路」の道歩きました。政治家としても活躍し、日本における砂防の重要性をいち早く説いた人物として「砂防の父」と慕われています。昭和46年に砂防への偉大な功績を評価されて文化勲章が授与されました。

赤木正雄展示館は完全予約制です。観覧をご希望の方は当館までお申込み下さい。

砂防の父 赤木正雄展示館（観覧は要予約です）

〒668-0843 兵庫県豊岡市引野972

- 開館時間：[予約制] 週2日、金・土曜日 午前10時～午後3時まで（入場無料）
- アクセス：JR山陰線 江原駅から車で約15分、豊岡駅から車で約15分
- 主な展示：ケース展示、パネル展示、映像コーナー

観覧申込み・お問い合わせ

一般社団法人 砂防の父 赤木正雄展示館

●電話／FAX：0796-34-6517

●電子メール：sabo-am-tenjikan@lilac.plala-mail.jp

《赤木正雄展示館は生家である赤木家住宅の一角に開設されています。》

プロフィール

努力の人

赤木正雄は秀才型の人ではなかった。しかし非常に努力するタイプの人であった。机に向かって字を書いて覚える。一心にやっ
てひじから血の出る程であった。²⁾

日常の赤木正雄

私自身は役所の規定時間には必ず都電で登庁して永年に及んで一日と雖（いえど）も欠勤、遅刻の日を知らず、退庁も時刻とともに課員を帰し、万一時間の執務の必要があればなるべく私だけ居残ることにしていた。在職中その日その日を砂防技術上公正な判断の下せるようにと、毎朝自室に一歩入るとともに人知れず神仏の加護を祈願して心を安めた。³⁾

自分で実地を検証した

赤木正雄は地方庁から提出の設計書を審査する必要から砂防施工地の現地調査を可能な限り実行した。リュックサックに登山靴、ステッキに洋傘のスタイルでした。³⁾

謹厳・実直 信念の人

出張先では知事の招待でも一滴の酒も口にしないため、何れの府県に行っても誰云うとなく私は禁酒家です。³⁾



砂防会館前の銅像
昭和46年(1971)建立

赤木家住宅は防災拠点の役割も担ってきた



軒につるされた川舟
避難と炊き出し運搬に使用



蓮池
地域の防火用水として利用



水防竹林
洪水の力を弱め、家を守る



石垣
洪水から守るための高い石垣

赤木家住宅は登録有形文化財です。

～ メッセージ ～

砂防関係団体の協力により開館した「砂防の父赤木正雄展示館」は、令和5年(2023)で10年の節目を迎えます。展示館では砂防事業の重要性及び、赤木正雄の偉大な足跡を紹介しています。特に子どもたちの見学には力を入れており、第2・第3の赤木正雄の輩出を目指すという気概を抱いて案内をしています。

館長 赤木新太郎



連絡先 一般社団法人 砂防の父赤木正雄展示館
住所 〒668-0843 兵庫県豊岡市引野972
開館日 週2回金・土曜日 観覧は事前予約制 午前10時～午後3時
入場料 無料
駐車場 あり
電話 0796-34-6517
E-Mail sabo-am-tenjikan@lilac.plala-mail.jp
発行 令和6年(2024)1月
制作 一般社団法人砂防の父赤木正雄展示館、
特定非営利活動法人 兵庫県砂防ボランティア協会

兵庫県砂防ボランティア協会は、砂防の父 赤木正雄展示館と連携、協力して、啓発活動や地域の防災・減災活動に取り組んでいる。本ガイドブックは、ボランティア活動の砂防学習に広く活用するため、令和5年度砂防ボランティア基金等により制作したものである。

引用文献 1) 赤木一彦：赤木正雄博士とその令兄
2) 矢野義男：赤木正雄の足跡 3) 赤木正雄：砂防一路
4) 友松靖夫：石積み堰堤を追いかけて

砂防の父

赤木正雄展示館

～砂防への熱き思い～



一級水系 円山川

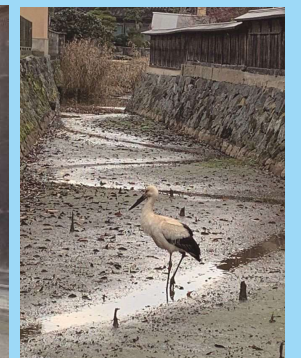
赤木正雄生家

空から見た生家

まるやま 円山川沿いにある生家は度々洪水に見舞われ砂防を志した原点ともいえる。後に、赤木正雄は手紙で故郷の円山川改修の国直轄化に「私は責任を果たしました」と書いた。¹⁾



砂防の父 赤木正雄展示館 正面



生家の蓮池に舞い降りたコウノトリ

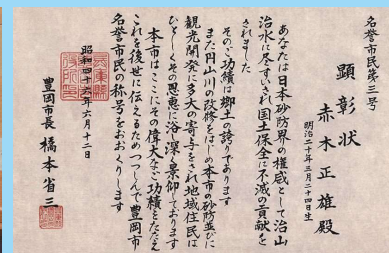
展示館案内時に反応の大きい項目

・コウノトリを身近でみること ・水防竹林 ・かさ上げた、堅牢な石垣
・防災用水を兼ねた蓮池 ・玄武岩の柱状節理 等

砂防の礎を築いたことから「砂防の父」と慕われた赤木正雄博士の偉業を讃え、砂防の役割を広く皆様に知っていただくため、赤木正雄博士の生家に「砂防の父 赤木正雄展示館」を平成25(2013)年9月に開設しました。

ギャラリー

パネル展示・映像コーナー・ケース展示



「砂防の父」と慕われるゆえん

赤木正雄は明治20年（1887）兵庫県豊岡市に生まれた。そして、故郷を流れる円山川の洪水氾濫をなんども経験しました。第一高等学校で新渡戸稲造校長の、毎年来襲する水害を憂う切々たる訓話を聞いて、『治水に身を委ねよう。しかも河の源から治める道に従事しよう』と決意します。東京帝国大学農学部林学科で砂防を学んだ後、治水の根源ともいべき砂防事業を所管している内務省土木局に初めて林学出身の技師として採用され、孤軍奮闘、数々の実績を積み、土木局に砂防行政を専管する第3技術課（砂防課の前身）を創設し、現在ほとんどの都道府県に砂防課が設置されるに至っている。

内務省退官後、政治家としても活躍し、日本における砂防の重要性をいち早く説いた人物として『砂防の父』と慕われています。昭和46年（1971）に砂防への偉大な功績を評価され文化勲章が授与されました。

偉業1

- ・砂防の予算拡充と組織化に奔走し、砂防事業の基礎を確立

偉業2

- ・貴族院議員に勅選される
- ・参議院議員になる 昭和22年(1947)5月～昭和31年(1956)7月
- ・「砂防」は「SABO」として世界の共通語になる
- ・建設省砂防部の新設に尽力 昭和37年（1962）



円山川畔の銅像
昭和40年(1965)建立

天皇陛下にご進講 昭和23年(1948)11月

宮中において「砂防工事と治水」につきご進講申し上げることになった。初め1時間半の予定でご進講申し上げたが、いろいろと陛下からご下問があって約3時間に及んだ。3)

業績(兵庫県)

旧来の砂防工事の常識を大きく転換させようとした一貫した砂防計画

砂防法を厳正に解釈すれば、（中略）植生に主力を注ぐ山腹工事に限定されるが、（中略）欧州のアルプス周辺の各国（中略）のように、溪流が本流に合流するまで全域にわたり一定の砂防計画を樹立し、それに基づいて施工するのが砂防の本旨である。（中略）そこで私はたとえ砂防法に相違してもこの際わが国の砂防施工範囲と工法に根本的の転換を計り、広く溪流砂防工事を実施することに独断で決意した。このように、水源からその溪流が本流に合するまでの一貫した砂防工事として初めて着手したものが、兵庫県武庫川支流逆瀬川の砂防工事である。3)



明治時代の荒廃した逆瀬川上流



明治・大正時代の山腹工事

赤木正雄博士の指導によって地域の宝となった逆瀬川 兵庫県 宝塚市



明治中期の逆瀬川 幅200~300m



発展した逆瀬川流域の市街地

逆瀬川の鎧積み堰堤

「鎧積み」と称される石積み工法は、石積みの外観から、ちょうど鎧のシコロの一枚一枚のように見えることからこの名前がついたと言われている。4)



全国治水砂防協会設立 昭和10年(1935)

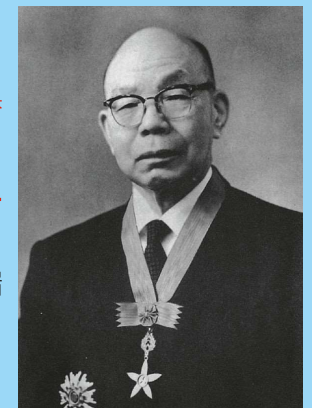
赤木の一人の力では砂防予算の獲得に限界を感じ、砂防工事を熱望する国民の声を結集して働きかける団体の必要性を痛切し、気骨精神で設立



現在の砂防会館

アーカイブ

- ・明治20年（1887）^{ひきの} 現兵庫県豊岡市引野の代々続く庄屋の家に生まれた。13才の時に母を亡くすが村の為に生きた兄・一雄に生涯助けられ、砂防一路の道を行んだ
- ・明治40年（1907） 第一高等学校に入学（20才）
- ・明治43年（1910） **新渡戸稲造校長の訓話で砂防を志す**
- ・大正3年（1914） 東京帝国大学農学部林学科卒業（27才）
内務省に入省 直ちに滋賀県田上山の山腹工事現場に勤務
- ・大正4年（1915） 吉野川砂防工事事務所 溪流砂防工事に従事
- ・大正12年（1923） 内務省休職 オーストリア・ウィーン農科大学留学（36才）
- ・大正15年（1926） 初代の立山砂防工事事務所長 常願寺川の直轄砂防工事が始まる 白岩砂防堰堤等の建設を指揮
- ・昭和3年（1928） 赤木正雄の指導によって逆瀬川流路工の建設が着手
- ・昭和10年（1935） **全国治水砂防協会設立**
京都府雲原村の砂防工事を指導
京都大学「農学博士号」の学位授与
- ・昭和13年（1938） 阪神大水害 赤木正雄博士が指導された流路工により、逆瀬川では神戸市のような大きな災害はおこらなかった
- ・昭和13年（1938） 内務省土木局第3技術課の初代課長（51才）
- ・昭和17年（1942） 内務省を退官(55才)
- ・昭和21年（1946） 貴族院議員に勅撰（59才）
- ・昭和22年（1947） 参議院議員兵庫地区区当選（60才）
- ・昭和23年（1948） 天皇陛下に「砂防工事と治水」をご進講
- ・昭和26年（1951） アメリカの最高技術委員会ローダーミルク会長に現場同行・懇談 **「SABO」は世界の共通語**
- ・昭和32年（1957） 砂防会館竣工（70才）
- ・昭和35年（1960） 藍綬褒章受賞（73才）
- ・昭和46年（1971） **豊岡市から名誉市民の称号を贈呈**
- ・昭和46年（1971） **文化勲章を授与**（84才）
- ・昭和47年（1972） 永眠 勲一等瑞宝章を授与（85才）



文化勲章を授与